Mizar数学ライブラリをホスティングする Webプラットフォームの研究

発表者 山口大学大学院 山道 大地 共同研究者 山口大学 中正和久 共同研究者 信州大学 和﨑克己

- 1. 背景
- 2. 目的
- 3. 先行研究
- 4. 実装
- 5. 評価
- 6. 実演
- 7. まとめ
- 8. 謝辞

- 1. 背景
 - 1. Mizar
- 2. 目的
- 3. 先行研究
- 4. 実装
- 5. 評価
- 6. 実演
- 7. まとめ
- 8. 謝辞

1.1 Mizar

- ライブラリの量が増え続けている。
 - 現在1300ファイル以上、総行数310万行以上



310万行なんて読めないし、 ファイルを探すにも苦労しそう



Wikipediaのような、 解説やリンクや検索機能がある プラットフォームが欲しい!

▲ログインしていません トーク 投稿記録 アカウント作成 ログイン



メインページ

ページ ノート

Wikipedia内を検索

Mizar

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

自動証明検証システム Mizar(ミザー、ミザール)は、まったく厳密に形式的な形で数学的な定義や証明を記述するためのデータ記述言語(Mizar-言語)、実際にその言語で記述された証明の内容を検証することができる計算機プログラム(証明 検証プログラム)、プログラムから参照して新たな証明の際に利用可能な定義と証明済みの定理からなるライブラリ (MML) の三者から構成される。

Mizar と同様の目的を持つプロジェクトに、ロバート・ボイヤーのQEDプロジェクトがある。

引用: Wikipedia 「Mizar」 https://ja.wikipedia.org/wiki/Mizar

- 1. 背景
- 2. 目的
- 3. 先行研究
- 4. 実装
- 5. 評価
- 6. 実演
- 7. まとめ
- 8. 謝辞

Mizar言語の統合的Webプラットフォーム の作成

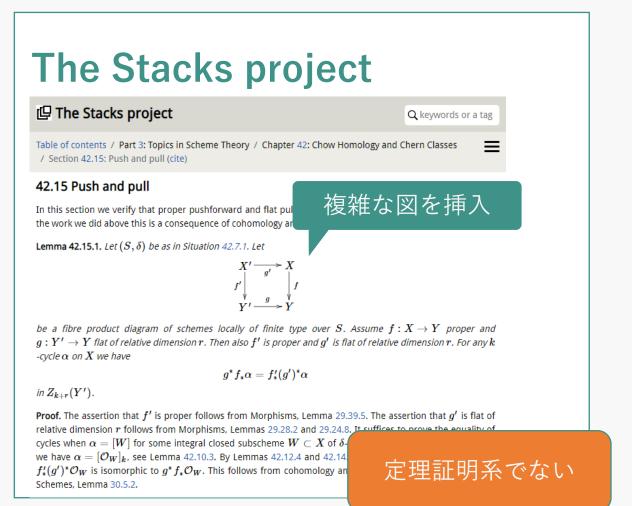
基本機能の実装

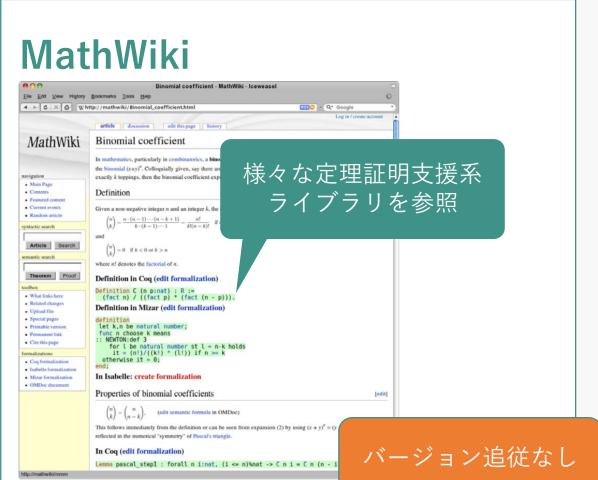
- Mizar言語の解説を追加、閲覧する機能
- 検索機能

- 2.
- 先行研究 3.
 - Wikiで数学記号を扱う試み
 - ライブラリのHTML化
 先行研究比較
- 4. 実装
- 5.
- 6.
- 7.
- 8.

3. 先行研究

3.1 数学記号を扱うWebプラットフォーム





3.2 ライブラリのHTML化は、可読性を高める

HTML形式

```
theorem :: TARSKI:2
  for X, Y being set st ( for x being object holds
  ( x in X iff x in Y ) ) holds
  X = Y by TARSKI_0:2;
```

```
Mizar言語
```

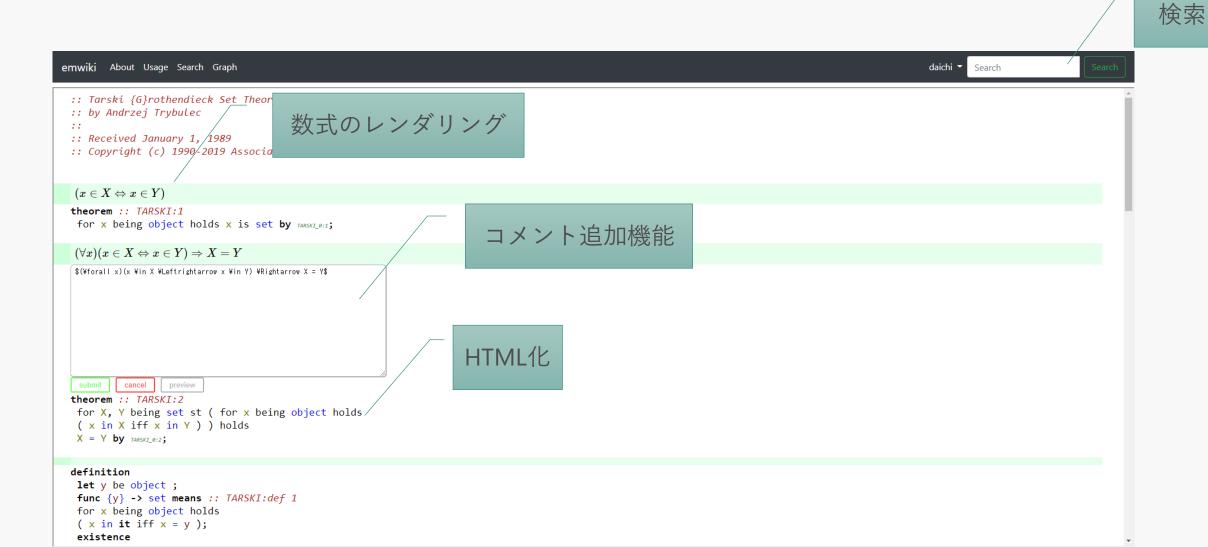
```
theorem :: Extensionality
(for x being object holds x in X iff x in Y) implies X = Y by TARSKI_0:2;
```

3.3 先行研究では不十分

	HTML化	The Stacks project	MathWiki	本研究
ハイパーリンク	✓	✓	~	~
形式言語の埋め込み	✓		~	~
グラフ表示				✓
検索		✓	✓	✓
解説の編集		✓	✓	✓
バージョン追従	~	✓		✓

- 1. 背景
- 2. 目的
- 3. 先行研究
- 4. 実装
 - 1. 実装機能抜粋
 - 2. 各機能詳細
- 5. 評価
- 6. 実演
- 7. まとめ
- 8. 謝辞

4.1 実装機能抜粋



HTMLized MMLを使用

- 形式言語の可読性を高める
 - 色付け
 - リンク
 - マウスホバー
 - 証明の折り畳み

```
emwiki Start
                                              tarski
                                 tarski.html
  :: Tarski {G}rothendieck Set Theory
  :: by Andrzej Trybulec
  :: Received January 1, 1989
   :: Copyright (c) 1990-2019 Association of Mizar Users
  theorem :: TARSKI:1
   for x being object holds x is set by TARSKI_0:1;
   (\forall x)(x\in X\Leftrightarrow x\in Y))\Rightarrow X=Y
  theorem :: TARSKI:2
   for X, Y being set st ( for x being object holds
   ( x in X iff x in Y ) ) holds
   X = Y by TARSKI_0:2;
   任意のyに対して\{y\}とは、任意のxについて
                             x \in \{y\} \Leftrightarrow x = y
   を3.た才隹今でおり が音の。。に対して〔。。。〕とけ が音の。について
```

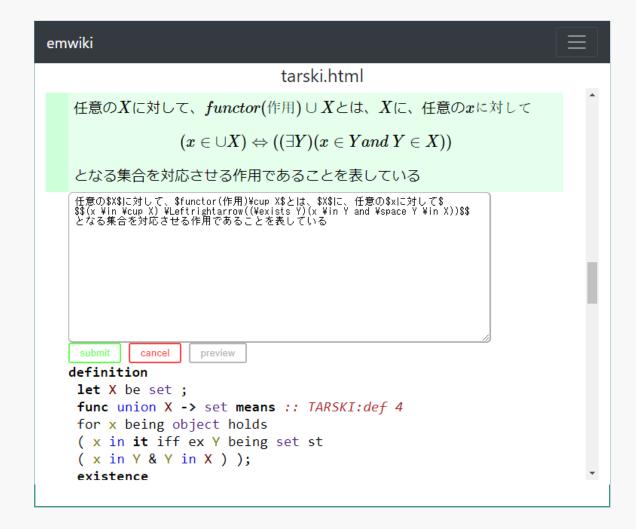
コメント追加

- 指定個所に解説を追加
- テキストボックス
- 以下のボタンを実装
 - 編集完了
 - 編集取り消し
 - プレビュー
- ログインユーザーの編集可能

```
emwiki
                            tarski.html
   retlexivity;
  end;
  :: deftheorem defines c= TARSKT:def 3 :
  definition
   let X be set ;
   func union X -> set means :: TARSKI:def 4
   for x being object holds
   ( x in it iff ex Y being set st
   (x in Y & Y in X));
   existence
   proof end;
   uniqueness
   proof end;
  end;
  :: deftheorem defines union TARSKI:def 4 :
  theorem :: TARSKI:3
   for x being object
   for X being set st x in X holds
```

数学記号のレンダリング

● TeX形式の数学記号

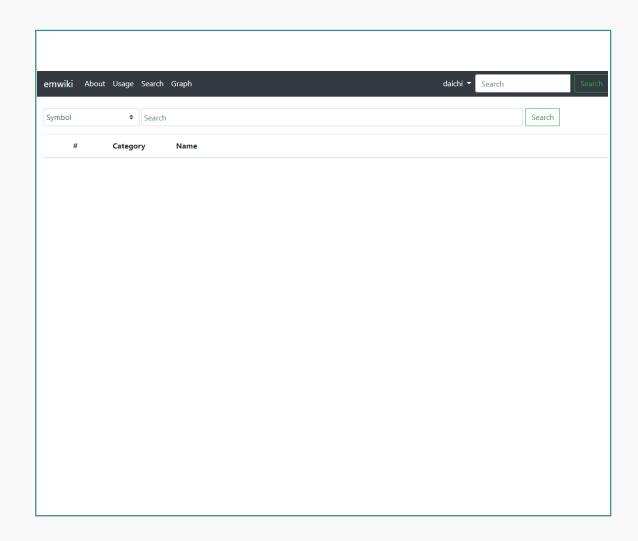


MML Reference の統合

symbol検索やsymbol間の相 互参照に便利

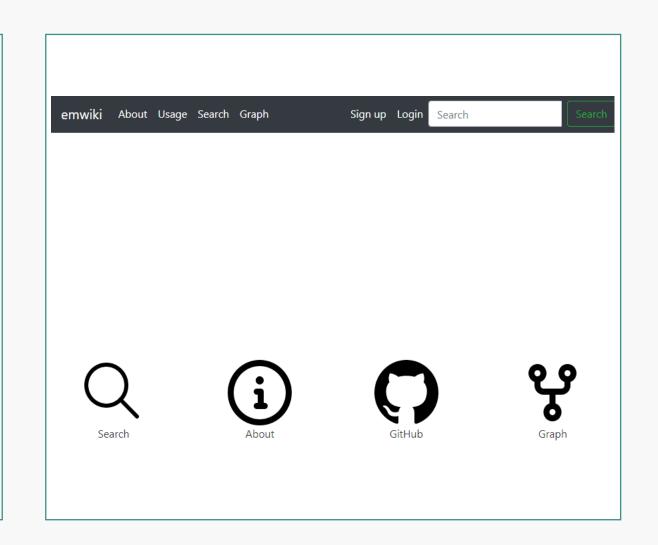
MML Reference

https://mimosa-project.github.io/mmlreference/current/



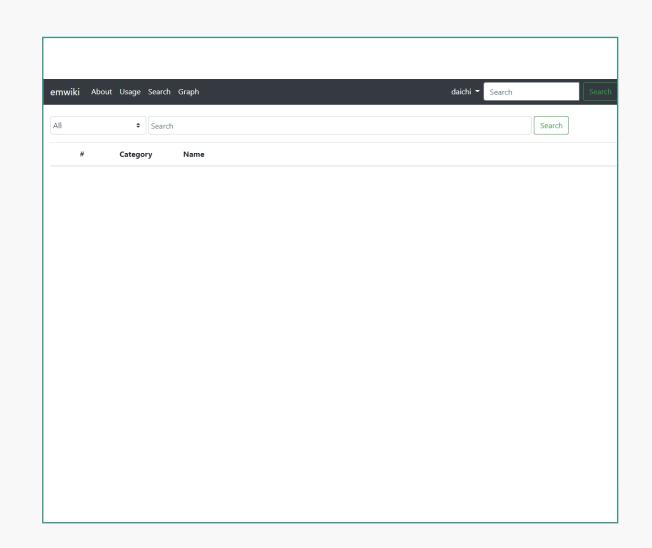
ナビゲーションバー

- 常に表示
- 検索
 - いつでも検索可能
- ・リンク
 - 他のページに移動
- アカウント管理
 - ログイン等



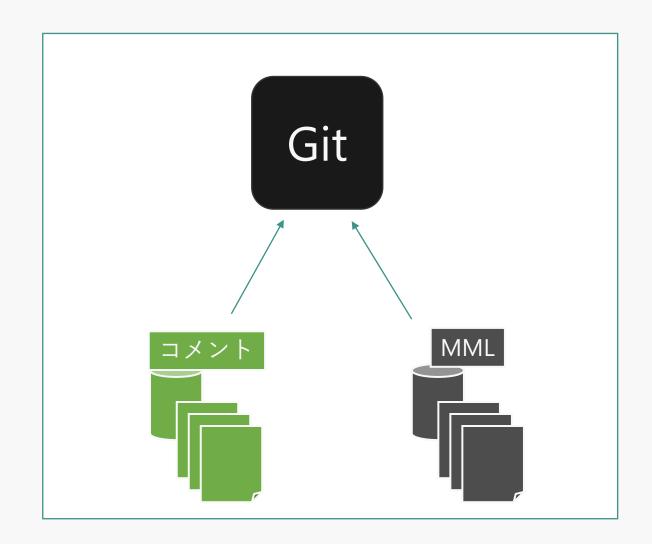
検索

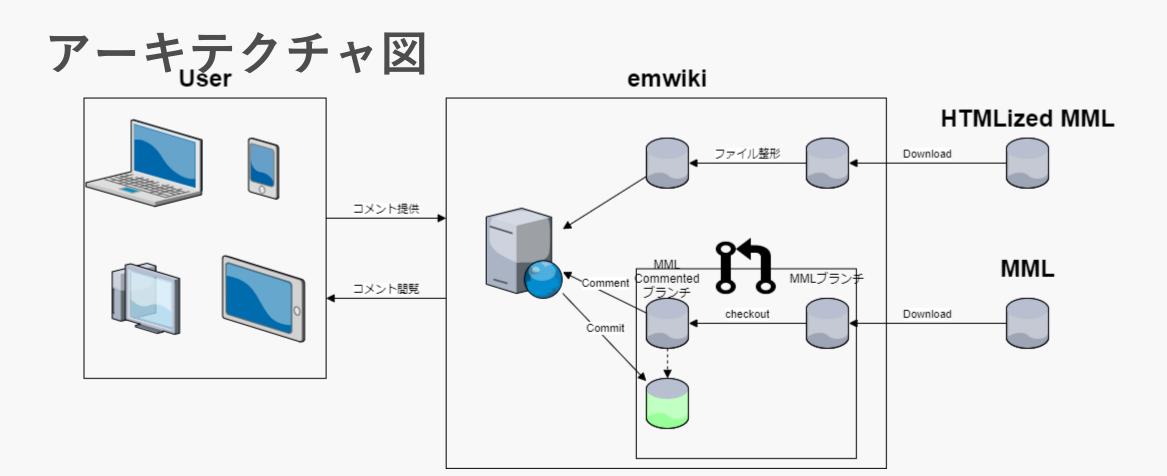
- ファイル名で検索可能
 - Article:1300ファイル以上
 - Symbol:9000ファイル以上
- 入力中に候補を表示
- 検索後はファイル名表示
- 部分一致文字をハイライト
- Article, Symbolを検索可能



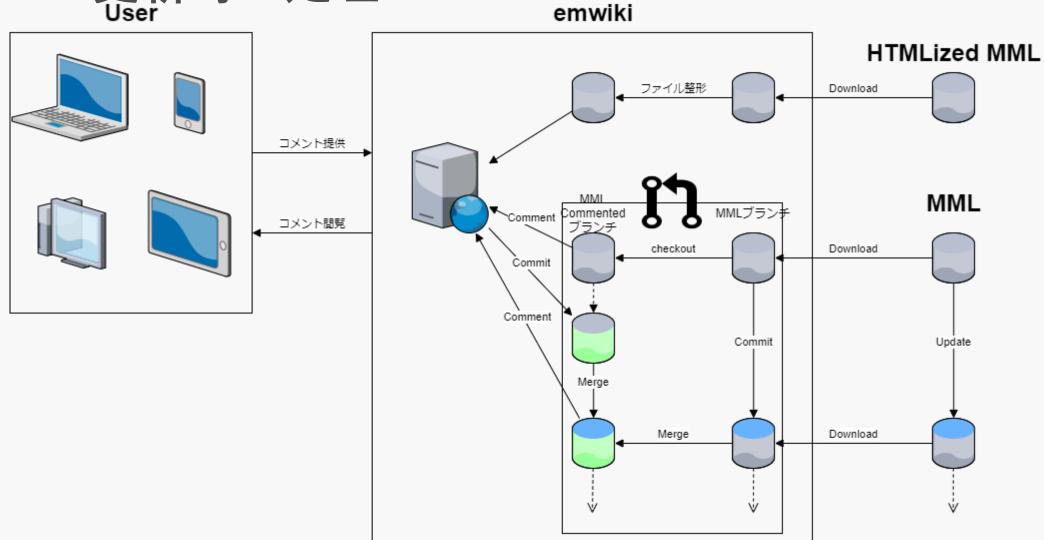
バージョン追従

- MMLの更新に、解説を追従
- コメントとライブラリをGit上 で統合し解決





MML更新時の処理



コメントが埋め込まれたMizarファイル

```
begin :: Semilattice of type widening
                                   ::: \begin{eqnarray} \left\{ \begin{array}{1}
                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              x + y = 10 \setminus
                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                2x +
                                    ::: 4y = 32
                                                                                                                                      \end{array} \right.\end{eqnarray}
                                   registration
                                             cluster reflexive -> complete for 1-element RelStr;
52
                                             coherence;
                                   end;
                                    ::: this is demo
                                    ::: A \cdot B = 
                                   definition
                                    let T be RelStr;
                                             mode type of T is Element of T;
                                   end;
62
                                    ::: thsi is second $definition$
                                   definition
                                              let T be RelStr;
                                                attr T is Noetherian means
                                                :Def1:
                                                the InternalRel of T is co-well_founded;
                                    end;
```

- 1. 背景
- 2. 目的
- 3. 先行研究
- 4. 実装
- 5. 評価
 - 1. 評価結果
- 6. 実演
- 7. まとめ
- 8. 謝辞

5.1 評価結果

○:各使用性が認められた

〇:各使用性が認められたが、否定的な意見があった

	有効性	効率性	満足度
ナビゲーションバー			
検索			
数学記号のレンダリング			
プレビュー機能			

2020年3月時点

- 1. 背景
- 2. 目的
- 3. 先行研究
- 4. 実装
- 5. 評価
- 6. 実演
- 7. まとめ
- 8. 謝辞

6. 実演

emwiki About Usage Search Graph Search Search Search









•

- 1. 背景
- 2. 目的
- 3. 先行研究
- 4. 実装
- 5. 評価
- 6. 実演
- 7. まとめ
 - 1. 先行研究と比較
 - 2. 今後の課題
- 8. 謝辞

7.1 先行研究の不足機能を実装した

	HTML化	The Stacks project	MathWiki	本研究
ハイパーリンク	✓	✓	✓	✓
形式言語の埋め込み	✓		~	✓
グラフ表示				
検索		✓		✓
編集		✓	✓	✓
バージョン追従	✓	✓		✓

7.2 今後の課題

- Article間の依存関係グラフ表示機能
- 定理の効率的な検索機能

謝辞

本研究はJSPS科研費 JP20K19863の助成を受けたものです。

参考文献

- MML Reference https://mimosa-project.github.io/mmlreference/current/
- MML Query http://mmlquery.mizar.org/
- JIS Z8521 Technical report 1999
- C Lange and J Urban. Mathwikis-2011 mathematical wikis: Proceedings of the itp 2011 workshop on mathematical wikis. 2011.
- The stacks project. https://stacks.math.columbia.edu/